

# 21世紀初頭前後以降の J-Pop における実力派アイドルボーイズグループの系譜

## －「非アイドル」という新たなスタイルイメージの創出へ－

A genealogical study on the truly versatile idol boy-bands of J-pop before and after the beginning of the 21st C :  
From the viewpoint of image-building gradations brought out by the non-idol artists, as a marked paradigm shift away  
from the mainstream/stereo-typed one

---

増 山 賢 治

MASUYAMA Kenji

This paper is a genealogical study on the new type idol boy-bands of J-Pop, who made their debut before and after the beginning of the 21st C, mainly referring to the background of their ups and downs. They actually presented a lot of high quality performances in the world of entertainment, and their brilliant achievements in music/dance, TV/movie, musical/straight play have been successful in cultivating a way to build up a new image of idol boy-band for the followers. The bands should be recognized as much more versatile than the mainstream/stereo-typed equivalents by comparing the performance ability in singing, dancing, and acting, e.t.c.. As a result, it could be considered that they brought out the gradations of image-building in the idol boy-band, and achieved the paradigm shift away from the mainstream/stereo-typed one.

### ■はじめに 「非アイドル」を探せ

本論稿は既出の拙稿「J-Pop のイノベーターとしての『非アイドル』グループに関する一考察～DISH//、超特急、BOYS AND MEN を中心に」（『愛知県立芸術大学紀要 No.46』）の続編である。ここでは、アイドルボーイズグループといえば、大手メディアが芸能界の話題として積極的に取り上げ、地上波テレビに頻繁に登場する少数の限定的な存在が一義的に想起される状況に近年、明らかに変化の兆しが見られ、多様化が急速に展開しつつあることを示した。そして今回は、実はそれは突発的な現象ではなく、元来アイドルボーイズグループのジャンルは、大手メディアの報道のように画一的ではなく、多元的な状況であったという基本認識に基づき、21世紀初頭前後から活動を開始し、その優れた歌唱、ダンス、演技によって音楽、映像、舞台の各方面で輝かしい実績を残した実力派アイドルボーイズグループの系譜の整理を試みる。そして、それによって、「非アイドル」と称する新生ボーイズグループの出現への道を切り開いた彼らの存在意義を再確認する。以下、表記の便宜上、基本的に実力派アイドルボーイズグループは、実力派ボーイズグループと簡略化し、アイドルボーイズグループはそのまま使用する。

まず実力派とは、コトバンク（デジタル大辞泉）の説明によれば、「見せかけだけでなく、実際

にすぐれた能力をもっている人。」とあり、用例として「実力派俳優」という一語が挙げられている。前出の拙稿で述べたように、新興のボーイズグループが芸能界で申し上がって行くには、方便としての「非アイドル」というキャッチコピーが必要であり、それは実質的に実力派志向宣言に他ならないという着眼点に基づいて、彼らへの雑誌インタビュー記事で、特に音楽や芸能活動の方向性に関する質問に対する回答・発言、第三者によるイベント・ライブのレポート・批評、筆者の見聞（彼らのライブ、DVD/CD）、彼らのオリコンヒットチャートの成績などの諸情報を総合的に勘案し、次節で言及する諸グループを選出した。

本論稿において実力派ボーイズグループとは、一般的知名度の高いアイドルボーイズグループと同様、歌い踊り、演技もする若い男性グループアーティストだが、大手メディアが積極的に取り上げ、地上波テレビによく登場するジャニーズ系を中心とする勢力とヴィジュアル的なキャラクターは大差がなく、尚且つ歌唱、ダンス、演技の実力が上のグループを指す。J-Pop アーティストとしてデビューした諸グループはもとより、J-Pop にメジャーデビューした若手舞台・映画俳優の音楽活動も含めて考えるが、年齢が若くともいわゆるヴィジュアル系バンドや舞台・映像への出演が少ないものは除くこととした。

## 1 実力派アイドルボーイズグループの系譜

まず DISH//、超特急に代表される「非アイドル」出現の下地を作った先駆者を取り上げ、次にその後継者として 21 世紀初頭、特に 2.5 次元ミュージカル誕生・発展の起点ともいべきミュージカル「テニスの王子様」(略称はテニミュ) 初演時期(2003 年)と相前後してデビューしたグループを、J-Pop を活動のベースとして映像や舞台へ進出したミュージシャンたち、そして映像や舞台から芸能キャリアをスタートし、後に J-Pop アーティストとして音楽活動も展開した俳優たちの 2 タイプに分けて記述する。以下、デビューの時期・経緯、メンバーの氏名・年齢・担当、所属事務所、国内外の公演状況、代表曲などその活動・業績の特記事項を抽出しながら、基本的にメジャーデビュー年(グループ名に続く括弧内で表記)の順に述べる。

### (1) 先駆者たち

#### ・ DA PUMP (1997 年ー)

1983 年に開設された芸能人養成機関、沖縄アクターズスクール出身のダンスボーカルユニットで、ボーカルの ISSA をリーダーとした 4 人組として 1997 年にデビューした。以降、NHK 紅白歌合戦に何度も出場し、ベストアルバムの売り上げが 100 万枚を超えるなどの活躍からも分かるように一般的知名度は高い。所属事務所はヴィジョンファクトリー(現在のライジングプロダクション)、デビュー時の ISSA は 19 歳だった。メンバーが目まぐるしく入れ替わったが、ダンスの実力は高い評価を受けており、活動は現在も継続中。現在、公式 HP にメンバーとして掲載されているのは次の通りである。

ISSA (1978 年 12 月 9 日生まれ)、DAICHI (1988 年 12 月 4 日生まれ)、KENZO (1985 年 1 月 21 日生まれ)、TOMO (1981

年2月2日生まれ)、KIMI(1983年4月14日生まれ)、YORI(1980年2月9日生まれ)、U-YEAH(1983年9月17日生まれ)

・DOGGY BAG(2000年―2005年)

現在、DOGGY BAGの公式HPはないため、「CD Journal」のサイト([http://artist.cdjournal.com/a/\\_/120872](http://artist.cdjournal.com/a/_/120872))に掲載されているプロフィールを引用する。

2000年、日韓混成3人組ユニットとして韓国で先に人気を得たY2Kの成功を足がかりに、逆輸入の形で日本デビューを飾った雄一と光次の兄弟ユニット。この当時、兄弟の年齢は18歳と15歳。国内では無名の新人だった彼らの華々しい凱旋デビューが大きな話題となった。若々しいエネルギーと飾らないキャラクターを持ち、さわやかなメロディのポップ・チューンからダンス・チューンまでさまざまなタイプの楽曲をこなす。

ライブDVD映像は「DOGGY BAG LIVE BAG 2000」および「DOGGY BAG LIVE BAG 2001 at SHIBUYA-AX」に残されており、熱気あふれるパフォーマンスを観ることができる。映像分野では、テレビ東京の深夜放映のテレビドラマ「青い経験」(2000年)、「青の衝撃」(2000年)に出演(主演)し、いわゆる韓流ブーム以前に韓国語を披露したことは銘記されるべきだろう。Y2Kは2002年に活動を停止し、DOGGY BAGは2005年に解散したが、松尾兄弟は現在も4人組のポップロックバンドのSWANKY DANKとして音楽活動を展開しており、2017年9月27日にはメジャーデビューアルバム「Smokes」をリリースしている。

・PaniCrew(2000年 - )

公式HPのプロフィールやヒストリーは詳細に書かれているが、ここでは記述の便宜を考慮して彼らの契約レコード会社(日本コロムビア)による簡略化されたプロフィールを引用しておく。それを一瞥しただけでダンスの実力の高さが窺い知れる。

1998年PaniCrew結成。日本で最高峰と言われるストリートダンスの大会「ALL JAPAN DANCE DELIGHT」をはじめ、数々の大会で優勝。またメンバーの1人植木豪はイギリスで行われた「UKブレイクダンスチャンピオンシップ」に日本代表のひとりに選ばれ初出場で初優勝し、世界一となりストリートダンスのトップに輝いた。

2000年「DisCoNecton」でコロムビアよりメジャーデビュー。ダンススキルの高さと、観る者すべてを楽しませるパフォーマンスで、一躍人気グループとなる。また、近年ではキッズダンスの発展にも力を入れている。笠原康哉(リーダー)、水野哲也、森田繁範、植木豪(メインボーカル)、堀内和整、佐々木洋平、山本崇史、中野智行

< PRIZE >

・'98 ジャパンストリートダンスコンテスト 優勝 ・ ALL JAPAN DANCE DELIGHT グランプリ ・ 第2 ラジオトロン ダンスコンテスト 優勝 ・ デッセジェニーコンテスト 優勝 ・ トウルスクールコンテスト 優勝 ・ デューヤ第5回ダンスコンテスト 優勝 ・ 天下一舞踏会 優勝 ・ 西日本大道芸フェスティバル 優勝 ・ ビオルネ ダンスコンテスト 優勝 ・ UKブレイクダンスチャンピオンシップ(世界大会) 優勝 ・ DANCE DELIGHT ソロバトルコンテスト 優勝

公式HPや所属レコード会社のHPのディスコグラフィには、何故か映像に関するデータが少なく、それらには掲載されていないが、実際は活動初期のライブの様子を収録したDVDが出版されており、例えば「PaniCrew Live Tour 2002 フレッシュ・ダンス・バラエティー SHOW V」および「PaniCrew Live Tour 2003 フレッシュ・ダンス・バラエティー SHOW VI- 師走プロジェクト BREAK!03-04~」には2002年8月に発売し、PaniCrewの代表曲となった〈BASKETBALL〉も収録されている。そしてCDの近作「威風堂々～十年後のBASKETBALL～」（2013年）では、タイトルのとおり同曲の続編を発表して健在ぶりを示している。そして、派生ユニットとしてAUTRIBEが結成されており、その公式HPのプロフィールは以下のようになっている。

PaniCrewの植木豪と、良知真次を中心に結成！ 数度の共演を経て、元RSPのHILOMUと名古屋のダンスシーンを盛り上げてきたTAKAHIRO、DAISUKE、そしてサウンドプロデューサーにコンポーザーのemonを迎え、新しい形のエレクトリックポップサウンドを展開。2011年3月に『AUTRIBE』として始動。emonによるテクノサウンドと5人の卓越したダンススキルによるパフォーマンスで今注目のユニット。

CD「I'm Ready」はTVアニメ『弱虫ペダル』第2クールのエンディングテーマに採用されており、植木と共にボーカルを務める良知真次はミュージカルや舞台で欠かせない逸材であり、超歌劇「幕末ROCK」など2.5次元ミュージカルへの出演も多い。

・w-inds. (2001年ー)

公式HPには以下のように書かれている。

w-inds.(ウインズ)は、橘慶太、千葉涼平、緒方龍一からなる3人組ダンスボーカルユニット。2000年11月から毎週日曜日、代々木公園や渋谷の路上でストリートパフォーマンスを開始。口コミで瞬く間にその旋風は拡がりを見せ、デビュー直前には渋谷ホコ天に8,000人を動員。そして満を持して2001年3月14日にシングル「Forever Memories」でデビュー。同年リリースされた1stアルバム「w-inds. ～1st message～」はオリコンチャート1位を記録。その功績が認められ第43回日本レコード大賞最優秀新人賞に輝く。

2002年シングル「Another Days」「Because of you」、2003年「SUPER LOVER ～I need you tonight～」 「Long Road」、2005年アルバム「ageha」はオリコンチャート1位を記録。また、シングルオリコンチャート37作連続TOP10入りを果たし続けている。

これまでに日本レコード大賞 金賞7回、最優秀作品賞1回を受賞し、NHK紅白歌合戦には6回出場と、実力・人気を不動のものとした。

毎年全国ツアーを実施し、各地でw-inds. 旋風を巻き起こしている。2002年～2016年の15年間で行われた単独公演は534公演を数え、総動員数は150万人を突破した。その活躍は、台湾・香港・韓国・中国・ベトナムなど東南アジア全域に拡がり、海外でも数々の賞を受賞。台湾ではアルバム4作連続総合チャート1位を記録。日本人として初の快挙を達成。香港でもIFPI香港トップセールス・ミュージックアワードにてベストセールス・リリース日韓部門でアルバム12作連続受賞とい

21 世紀初頭前後以降の J-Pop における実力派アイドルボーイズグループの系譜―「非アイドル」という新たなスタイルイメージの創出へ―

う史上初の快挙も成し遂げ続けている。

2015 年にザ・ベネチアン・マカオ コタイ・アリーナにて開催された第 19 回 China Music Award で Asian Most Influential Japanese Singer (アジアで最も影響力のある邦人アーティスト) を受賞。日本人男性アーティストで初の栄冠を手にした。香港では長年にわたる香港・マカオでの J-POP 普及に寄与した功績が認められ、在香港日本国総領事館総領事より「在外公館長表彰 (総領事表彰) を授与。海外での単独公演はこれまでに台湾 7 公演、上海 2 公演、香港 8 公演を開催。

21 世紀という新しい時代に日本を中心に、世界中へ新しい風を巻き起こし続けている、男性ダンスボーカルユニット――それが w-inds. である。

デビュー時のメンバーの年齢は橘慶太と緒方龍一が 16 歳、千葉涼平が 17 歳である。所属事務所はライジングプロダクション (旧名はヴィジョンファクトリー)。ライブほか多様な DVD が多数発行されており、リードボーカルの橘慶太の少年の高音から大人の高音へと、3 人のダンスも成熟して行く過程を具に観ることができる。21 世紀初頭のポピュラー音楽の諸雑誌には w-inds. に関する掲載記事がかなり多く、インタビュー記事にアーティスト自らが楽曲について明晰な解説をしていることは注目に値する。その華麗な受賞歴、出演歴に示されているように、音楽はもとよりミュージカル界、ダンス界での評価は高く、国内外における継続的な活躍は目を見張るものがある。

3 人は現在も活動中で、ライブはすべて継続的に映像化されており、最近の状況は w-inds.tv や緒方龍一のラジオ番組 K-mix 「Active Life」などで知ることができる。彼らに関するネット上の最近の注目すべき記事として、デビュー当時の心境について語ったものがある。「橘慶太が明かす、アイドルではいられなかった w-inds. の熱い本音」(CINRA NET. <https://www.cinra.net/interview/201706-winds> 2017 年 11 月 13 日参照)

## (2) 後続者その 1 J-Pop から映像・舞台 (演劇、ミュージカル) へ

・FLAME (2001 年―2010 年)、EMALF (2013 年―2015 年)

FLAME もメンバーの入れ替えや一時的解散、新グループ結成とその活動は紆余曲折で、公式 HP がすでに閉鎖されているため、プロフィールを簡潔に整理して紹介しているタワーレコードオンラインの記事を引用する。

男性 4 人組のダンス/ヒップホップ・ユニット。2000 年 11 月に第 13 回ジュノン・スーパーボーイ・コンテストの中から選ばれた伊崎右典、伊崎央登、金子恭平、北村悠により結成。炎、情熱、輝き、愛、慈悲という意味を込め、FLAME と命名。2001 年 10 月にシングル「ムネノコドウ」でデビューし、同作が 15 万枚以上のセールスを記録した。歌とダンスを最大の魅力で、個々の声質の魅力を活かしたダンサブルな楽曲が武器とする実力派アイドル・グループ。2004 年に金子に代わり野口征吾が加入した。2010 年にいったん解散したが、2012 年に再結成。

上記に「2012 年に再結成」とあるが、これは 11 月 11 日に行った一夜限りの再結成ライブ「楽炎」のことである。そして、それに続く新結成の EMALF については以下のように記されている。

日本の男性ヴォーカル・ユニット。メンバーは Yusuke (伊崎右典)、Hisato (伊崎央登)、Yu (北村悠)、Seigo (野口征吾)、ATSU (小池敦)、BSK (岡村洋佑) の 6 名。元 FLAME のメンバーを中心に構成され、名前は FLAME の逆読み。2013 年 3 月に結成し、ミニ・アルバム『Try Again』でデビュー。メンバーチェンジを経て、2015 年からは現編成で活動を展開。シングル 6 枚、ミニ・アルバム 2 枚を発表するほか、定期ライブを主催。2015 年末をもって活動を休止。以降はソロ活動を継続。

FLAME も 21 世紀初頭の音楽雑誌での掲載記事が多く、台湾公演の熱狂的な様子 (2003 年 2 月 23 日) が DVD 「FLAME BOYS'BOX2~ 大追跡 ~」 に収められている。その姿は低年齢アイドルそのものだが、EMALF の時期にはさすがに歌もダンスも大人の雰囲気が出てきている。その後、伊崎兄弟と北村悠は映像、舞台でも活躍しているほか、伊崎右典は Vocal. 伊崎右典 (yusuke)、Guitar. 青柳竜市 (ryuniy)、Guitar. 谷昌弥 (tanichan)、Bass.TAK、Drum.Mayo の 5 人組バンド BANG STYLER のボーカルとして 2015 年 7 月 4 日シアター YES にて初のイベントを開催し、伊崎央登は Hisato&Kyohei の 2 人組ユニット、Dial-07 として音楽活動を展開している (それぞれの Twitter による)。

#### ・RUN&GUN (2001 年 - )

現在の公式 HP にはグループとしてのプロフィールが掲載されていないので、タワーレコードのもので代用する。

よみうりテレビのオーディション番組『スタパー!!』をきっかけに結成された男性 4 人組のアイドル・グループ。メンバーは上山竜司、永田彬、宮下雄也、米原幸佑。2001 年、浅倉大介のプロデュースによるシングル「LAY-UP!」でデビューを飾った。所属が吉本興業ということもあり、異色のアイドルとして注目を浴び、歌、ダンスはもちろんドラマ出演や定期的な舞台公演など、精力的な活動を見せる。関西はもちろん、全国区での人気を確立する。

これに新情報を少し加味すると、2014 年に上山竜司が脱退し、芸名も上山竜治に改めてミュージカル俳優として活躍している。デビュー間もないライブの様子は映像 DVD 「RUN&GUN SUMMER TOUR 03-BLUE JOURNEY-8.20 SHIBUYA AX」 に収められており、FLAME 同様、典型的な少年アイドルの姿が見える。4 人および個々での 2.5 次元舞台への出演では、代表作にミュージカル「エア・ギア」などがあり、その後次第に音楽活動が減少し、全員での音楽活動は事実上停止しているようである。そうした芸能活動の方向性について、デビュー間もないインタビュー記事(『da pati2 vol.4』の「4 人だけの小さな旅」と題された個人インタビュー)で上山竜司と米原幸佑が将来のヴィジョンを語った箇所は今から見ると興味深い(アンダーラインは本論稿の筆者による)。

上山「この 2 年の間には、演技まで経験させてもらえて。演技はやりたかったからすごくうれしかったし、これからもやっていきたいです。ダンスもますます面白くなってきたし、もっといろいろなことに挑戦したい。(中略)常に RUN&GUN のメンバーとして誇りを持ちつつ、どんな障害も乗り越えて、いつか上山竜司としても輝けたらいいなっておもいます(笑)。」



米原「これからはライブとかいっぱいやって、僕らのライブを観て感動して、さらに好きになってもらえるような、実力派と呼ばれる本格的なグループになりたい。」

現在、音楽活動は米原幸佑が最も顕著で、後出の音楽バンド「ココア男。」にもかかわっている。同バンドの解散後はソロ活動のほか、シンガーソングライターのサカノウエヨースケとヨースケコースケなるユニットを組んでライブ活動を積極的に展開しており、宮下、永田も映像・舞台で堅実な活躍を見せている。

#### ・Lead（2002年―）

所属事務所ライジングプロダクションの公式HPのプロフィールを引用する。

Leadは、谷内伸也、古屋敬多、鍵本輝からなるダンスボーカルユニット。

大阪のダンススクールで中土居宏宜・谷内・鍵本の3名が出会い、路上ライブを開始。その後、事務所主催のオーディションで選ばれた福岡県出身の古屋が加わり、4名でLeadを結成する。大阪のストリートパフォーマンスのメッカであった大阪城公園内・通称「城天」では、最高7,000人の動員を記録。話題騒然の中、2002年7月31日に平均年齢14.5歳の若さで、シングル「真夏のMagic」でデビュー。2013年4月現在までに、計20枚のシングル、7枚のアルバムをリリースしている。

Leadの真骨頂といえばライブパフォーマンス。2004年より春のファンクラブイベントツアー、夏の全国ツアーを毎年開催中。ライブ等で終始踊り続ける持久力には多くのアーティスト・ダンサーから度々賞賛の声が寄せられており、そのストイックさを全面に打ち出したステージこそLeadの代名詞であり、最大の武器と評される。

また、男子新体操を題材にして話題となったドラマ・舞台「タンブリング」にメンバーが出演したことをきっかけに、男子新体操の名門・青森山田高校出身の選手を中心に結成されたパフォーマンス集団「Blue Tokyo」のメンバーと幾度となく共演しており、アクロバットを取り入れたダンスパフォーマンスにも定評を集めている。加えて、「Leaders(リーダーズ)」と呼ばれるファンとのファミリー感も、Leadライブの特色の一つに挙げられる。

2008年よりメンバーが作詞・作曲を手掛ける楽曲を定期的に発表しており、さらに近年はアーティスト活動と並行して、コンスタントにドラマや舞台、バラエティ番組に各メンバーが出演している。2013年3月をもって、デビュー以来11年間に渡ってリーダーを務めた中土居が卒業。オリジナルメンバー3名でのLead第二章が始まる。

そして、所属レコード会社のポニーキャニオンのHPにはその主な活動歴が以下のように記されている。

[ドラマ]★2004.10～12 テレビ東京系「Deep Love～アユの物語～」(古屋敬多)★2005.10.3～12.26 テレビ東京系「Pinkの遺伝子」(中土居宏宜)★2008.7.21～9.22 フジテレビ系「太陽と海の教室」(鍵本輝)[映画]★2003.3.22公開「棒たおし」出演：中土居宏宜・谷内伸也・古屋敬多・鍵本輝★2004.3.13公開「KAMACHI(かまち)」主演：谷内伸也 出演：中土居宏宜・古屋敬多・鍵本輝★2004.4.3公開「Deep Love」主演：古屋敬多★2007.9.29公開「天使がくれたもの」主演：鍵本輝[賞]★2002年「第44回輝く！日本レコード大賞」新人賞受賞 受賞曲「Show me the way」★2004年「第46回輝く！

日本レコード大賞 金賞受賞 受賞曲「Night Deluxe」★2005年「第47回輝く!日本レコード大賞 金賞受賞 受賞曲「新しい季節へ」

w-inds.と同様、これまでにライブを毎年行って、そのすべてが映像化されていることは、幅広い楽曲スタイル、歌やダンスのレベルアップの様子を知ることができる点でも特筆に値する。最近の舞台出演には古屋敷多が「新・日の丸レストラン」(2011年)、「恋する私のベーカリー」(2012年)、「私のホストちゃん REBORN 絶唱! 大阪ミナミ編」(2018年)ほか、谷内伸也が映画・舞台「俺たちの明日」(2014年)、音楽劇「夜曲 nocturne」(2017年)、鍵本輝が「ぶっせん」(2013年)、「義風堂々!!」(2017年)などで主演を務めている。2.5次元舞台へのかかわりは見られないようだが、オリジナルミュージカルの「絆 2010 少年よ大紙を抱け」および「絆 2011 少年よ大紙を抱け」にメンバー全員が出演している。21世紀初頭の音楽雑誌はもとより、近年の音楽、演劇雑誌にも話題の対象として取り上げられた例は枚挙に暇がない。歌、ダンス、演技ともにじっくりと時間をかけて成長を遂げた感があり、ダンスの実力は実力派ボーイズグループの中でも群を抜いている。ラジオレギュラー番組も w-inds.と同様に持っている(Fm Yokohama「木曜日の男子会」毎週木曜日深夜1:00-1:30)ほか、2015年8月にはメンバーがプロデュースしたLeadcafeが原宿にオープンして、Leadを中心に同所属事務所のアーティストの映像が放映されている。

#### ・X4 (2015年ー)

ソロアーティストのグループ結成という珍しいケースで、結成年は最近だが、その中心人物となった松下優也のデビュー年が2008年なので、ここで取り上げる。公式HPのプロフィールは以下の通りである。

YUYA・KODAI・T-MAX・SHOTA・JUKIYA からなる関西発本格派ボーカル&ダンスグループ。2015年俳優としても活動するYUYA(松下優也)を中心にX4を結成。

2015年2月22日にリリースした1st Album「XVISION」がインディーズながらiTunes R&Bチャート1位を獲得。2015年3月20日から4月29日にかけて、わずか1ヶ月で全国20カ所をまわる1st TOUR【X4 LIVE TOUR 2015 -XVISION-】を敢行。ファイナルのTSUTAYA O-EASTはSOLD OUTになるなど、インディーズながらも驚異的なスピードで躍進を遂げ注目を集める。

2015年6月13日 Single「声にしたなら」を配信、iTunes R&Bチャート1位を獲得。2015年6月25日、代官山UNITでのライブにて、テイチクエンタテインメント内にX4の専門レーベル「XVISION(エクスヴィジョン)」を立ち上げメジャーデビューすることを発表。7月より全国TOUR【X4 LIVE TOUR 2015 -NEXTVISION-】を開催。

2015年10月7日にシングル「Killing Me」でメジャーデビュー。iTunes R&Bチャート1位、10月19日付オリコン週間シングルランキングで10位を記録。(デイリーランキング最高位3位)10月21日から全国15カ所をまわるツアー「X4 LIVE TOUR 2015 ~ Killing Me ~」を敢行。ファイナルはグループ最大規模となる品川ステラボール公演を大成功に収めた。

2016年1月より「連続リリース」を発表。1月「obsession」、2月「IDKYN(I don't know your name)」を配信し、共にiTunes R&Bチャート1位を獲得。2月、新メンバーSHOTAとJUKIYAの加入を発表。3月に新体制でのシングル「Party



Up!!」をリリースし、4月1日より東京 ZEPP ダイバーシティ、大阪なんば Hatch をファイナルとする全国 23 カ所のツアーを開催する。今まで結成よりリリースした作品全て、音楽配信チャート R&B チャートで 1 位を記録している。

松下優也の歌唱、ダンスの実力の高さは折り紙付きで、「黒執事」のシリーズや「花より男子」などの 2.5 次元ミュージカルに主演、そして映画やテレビドラマへの出演によって演技力を向上させているのは周知のとおりである。KODAI、T-MAX も舞台に出演しており、グループのプロフィールの冒頭に「本格派」と明記されていることは、アイドル性識別のアピールとして、その自信のほどを物語っている。

### (3) 後続者その 2 舞台（演劇、ミュージカル）・映像から J-Pop へ

#### ・ PureBoys（2007 年－ 2012 年）

このグループはすでに解散しており、公式 HP による正確なプロフィールが残されていないので、結成から解散まで在籍した八神蓮に対するインタビュー記事（『舞台役者の REAL VOICE ヒョウゲンシャノキモチ。vol.1』）から同グループに関する事項を拾ってみる。

・2007 年、アメーバブログを運営するサイバーエージェントが芸能事務所ケイダッシュとともに、若手俳優で構成されるユニット「PureBoys」を結成。八神はその創設メンバーに選ばれる。ミュージカル『テニスの王子様』からは八神の他に南圭介、馬場徹、滝口幸広、中山麻聖が参加。その他に加藤慶祐、武田航平が加入した。

・八神蓮「PureBoys ではいろいろとやらせてもらいました。デビューイベントは後樂園ラクーアだったんですが、取材陣の多さに驚きました。CD も出ささせていただいたり、舞台はもちろんやらせてもらいました。一番最初の PV は日比谷野音を貸切にして空撮でしたから。（中略）歌うのは、お客さんの前で歌って、反応があるのが楽しかったです。そこは舞台と一緒にできません」

・アメーバの公開録画では、それまで EXILE がもっていた動員記録を抜くほど。ミュージカル『テニスの王子様』、そして八神らの人気がかかがい知れる。

結成当初の彼らを取材した音楽雑誌『ARENA37℃ SPECIAL vol.38』（2007 年 11 月号）は、巻末大特集として 30 ページを割いている。テレビの冠番組「PureBoys The Pure」（BS フジで深夜放映）も持っていたが、アメーバスタジオを重要な活動の場所として機能させたことは、まさに新時代のグループにふさわしいと言えるだろう。ライブをフィーチャーした映像ソフトは見当たらないが、演劇活動でライブの形で歌やダンスを披露した舞台 DVD や CD の付録 DVD にその様子が収められている。2.5 次元舞台とのかかわりも深い。

#### ・ + Plus（2009 年－）

公式 HP はすでになく、残されたブログからプロフィールを引用する。

2008年12月1日結成。ロックをベースにしつつも、ヒップホップレゲエ、R&Bなどあらゆるジャンルのエッセンスを取り入れ、昇華させる新感覚4ピースバンド。2009年8月19日、「日向に咲く夢」でポニーキャニオンよりメジャーデビュー。精力的なライブ活動が特長で、2010年の全国ツアーも盛況のうちに終了。

彼らの活動も平坦な道程ではなく、2012年に小谷嘉一（ベース）、2013年に岩本健（ボーカル）が脱退し、MOTO（ボーカル/ギター）とTOMO（ボーカル）の2人体制となり再スタートしたが、同年に活動休止を決定し、それぞれがソロ活動を始めた。2014年にMOTOが一度音楽活動休止宣言をしたが、後に復帰し、2016年にオリジナルメンバー4人による再結成ライブを行っている。リリースされたシングルCDが様々なTV、アニメ、映画などのタイアップ主題歌として提供されたことは「レコチョク」のサイトにデータとして残されている。ライブ映像がほとんど残されておらず、俳優である小谷とTOMOが出演した舞台「メンズ校」の中で架空のバンドとして4人が登場したシーンが貴重である。小谷は2.5次元ほか舞台で俳優として活躍しており、MOTOとTOMOはソロおよびデュオの音楽活動を堅持している。

#### ・D ☆ DATE (2010年ー)

avexの公式HPよりプロフィールを引用する。

2010年12月に瀬戸康史、五十嵐隼士、荒木宏文、堀井新太のメンバーで「あと1cmのミライ」でメジャーデビュー、オリコン初週7位を記録する。その後も、リリースしたシングル5枚全てがオリコン週間シングル・チャートのベスト7以内にランクイン。2011年夏には、1stTour2011「Summer DATE LIVE ～手をつないで～」を開催。また本年4月にはこれまでのシングル曲、そして新曲2曲を含む1stアルバム「1stDATE」をリリースした。そして6月にはファン待望の2ndツアー「D ☆ DATE TOUR2012～DATE A LIVE～」を開催し、全国4都市（東京・大阪・名古屋・福岡）、さらに追加公演の初ホール公演となる東京ドームシティホールにて、ファイナルを迎えた。またこのツアーの最終公演にて、D-BOYSの柳下大が新しくメンバーに加入、新生D ☆ DATEとして更にパワーアップをはかる。メンバーはそれぞれ、俳優としても活躍。

D ☆ DATEはそもそも、ワタナベエンターテインメント所属の俳優集団D-BOYSから選抜されたメンバーで結成されたものである。結成時は荒木宏文、瀬戸康史、五十嵐隼士、中村優一の4人であったが、中村優一は体調を理由にグループ活動に参加することはなかった。一時期芸能界を離れていたが、現在は事務所を移籍して復帰し、舞台・映像分野で活躍している。グループ結成前のメンバーの音楽活動歴として、中村優一はソロ音楽活動を、瀬戸康史は自らが出演した仮面ライダーのメンバーで構成したバンドでライブを行ったことが確認できるほか、荒木宏文は映画「ビートルock ☆ ラブ」(2009年)でビジュアル系バンドのメンバーを演じている。そして、TVガイドによるD ☆ DATE PRESS WEBというサイトはメンバー個々の活動を紹介しており、またD ☆ DATE YouTubeに音楽パフォーマンスの動画がアップされて、地上波テレビ依存から脱却していることがわかる。2.5次元舞台とのかかわりも密接で、PureBoys同様その例は枚挙に暇がない。

## ・ココア男。(2010年ー2012年)

公式HPはすでにないため、avex公式Twitterに書かれているプロフィールで代用する。

関西テレビの人気番組から誕生した鎌苅健太・鈴木勝吾・細貝圭・米原幸佑・井出卓也で結成された5人組バンド「ココア男。」約2年間の活動を経て2012年3月31日解散。3年後の2015年3月15日に一日限定復活ライブ『心愛祭～いまさらだけどココア男。の「。」っている?～』を開催し大盛況で閉幕。

メンバーはそれぞれに所属事務所が異なっているが入れ替えはなく、解散時まで固定していた。タイアップソング、イベント、ライブ（ホールではなくライブハウス中心）に関する記事が、複数の雑誌に頻繁に掲載されていることは注目に値する。その一部を以下に記す。

### ・『ROCKSTAR vol.08』(ARENA37°C 2010年5月号増刊)

→関西の人気テレビ番組「イケメンデルの法則」から生まれたココア男。Debut Single「甘い罠 苦い嘘、、、」4.14Release

### ・『GoodCome vol.18』(2011年2月7日)

→ココア男。LIVE TOUR 2010 ホットココア一杯目 ～ヒリヒリしちゃうばいんじやない～レポート

### ・『キャスプリゼロ vol.013』(2010年11月15日)

→「Release Interview ココア男。」発売中の2ndシングル「Let me free～強引なほど、、、/CROSS MIND」と12月1日発売予定のミニアルバム、12月5日、6日開催予定の大阪・東京ライブ。

### ・『ARENA37°C SPECIAL vol.77』(2011年2月)

→待ちに待ったミニアルバム『RICHCOCOA』Now On Sale! 2010年をココア男。としてかけ抜けた5人に迫る!

### ・『PATi ☆ ACT volume09』(2011年9月12日)

→「俳優としても活躍中のイケメンバンドの恋愛観をチェック!」最新曲「ハリキリ女神が好評な中、10月にはココア男。初の冠バラエティー番組「MOTEL~欲しがる男女のモテ学~」のDVD-BOXもリリース!

### ・『キャストサイズ Vol.4』(2012年4月26日)

→ココア男。2012.3.31. ラストイベント

解散に向けて渋谷AXでのホール最終ライブの会場には中国のファンからの花も飾られていた(写真1)。それは現代社会の情報伝達の早さによる人気の広がりを示すネット時代を象徴する現象である。細貝圭(ベース)、鈴木勝吾(ギター)をはじめメンバー全員が2.5次元舞台とのかかわりが多く、解散後のメンバーの音楽活動ではRUN&GUNの米原幸佑(ドラム)以外にも、鎌苅健太(ボーカル)、井出卓也(キーボード/ラップ)がユニークな活動を展開している(次の第2節を参照)。

## 2 百花繚乱の新生アイドルボーイズグループ

「非アイドル」を宣言したDISH//、超特急らが登場した2012-13年以降、類似の新生アイドル

ボーイズグループが続々と結成されているが、中でもアニメ声優や俳優によるグループが新しい現象として注目される。2次元の新人5人組男性アイドルと実際のキャストが連動した2.5次元アイドル応援プロジェクト「ドリフェス！」のメインキャラクターを演じる5名によるユニット、DearDream や、声優とは別に俳優がアニメ中の架空アイドルを具現化したB-Project、あんさんぶるスターズ！オン・ステージをはじめとして、新人男性アイドル候補生・スター☆コンチェルトが、共同生活を送りながら成長していくという内容のオリジナルドラマ「スター☆コンチェルト～オレとキミのアイドル道～」で、元ココア男。の鎌苅健太ら劇中の8人組ユニット「スター☆コンチェルト」が主題歌「So Distance」でCDデビューするなどの例がある。そして、読者モデルと Sony Music のオーディションによって選抜された XOX、動画投稿サイトからスタートした MeseMoa、地下アイドル出身の B2Takes、名古屋発の MAGIC ☆ PRINCE、高校生3名と小学生1名からなるヒップホップグループの MAGiCBOYZ、自らを宇宙人と名乗る6人組の ChaCK-UP、原宿、渋谷でストリートライブを活動のメインとする First place、九州で活動する九星隊、元ココア男。の井出卓也がメンバーの一人になっている5人組ボーカルユニットの龍雅（2017年12月31日をもって活動休止）、主に関東をベースに活動している NEVA GIVE UP から続々とそれぞれのスタンスで活動を展開している。

それから、ニコニコ、アメーバ、LINE やローカルテレビ局を情報拡散の主軸として保持しつつ、最近では地上波テレビメイン局へもじわじわと進出している DISH//、超特急らの動向も注目される。その他、特筆すべきは2.5次元ミュージカルが「SHOW BY ROCK」（主演は元ココア男。の米原幸佑）ほかで劇中ライブを組み入れる演目を増加させていることを考えると、まさに百花繚乱の感があるが、これらの最新状況については別途機会を設けて論じたい。

### 3 結論

以上見てきたように、実力派ボーイズグループはデビューの経緯、所属事務所も様々で、メンバー構成もユニークであるが、それぞれに実力を養い、実績を上げてきたことがわかる。多くのグループが音楽雑誌、演劇中心または演劇と音楽を扱うカルチャー雑誌に登場していることが特徴の1つとして挙げられるが、その活動は実は深夜放映テレビ番組の状況に似ているように感じられる。『21世紀深夜ドラマ読本』の表紙裏頁に次のような文言が書かれている。

はじめに「テレビなんて終わってる」インターネットの普及と映像媒体の多様化により、地上波の視聴者数は減っていき、そんな声が聞かれるようになった。しかし近年、ゴールデンタイムのドラマで活躍する俳優や、映画などを主戦場としてきた他ジャンルのクリエイターたちが参加することで、グイグイと深夜ドラマが面白くなってきている。

そして、その革新性や影響力についての興味深い指摘は、テレビドラマだけでなく実力派ボーイズグループの活動にも当てはまるのではないだろうか？ 歌、ダンスに演技の実力も加えることでさらに充実したパフォーマンスを展開している諸グループによる男性アイドルグループのイメージ

の変革によって、アイドル報道とその一般認識における先入観の払拭が促されたように思う。そういう意味では、地上波テレビの死滅、LINE ライブ中継の時代を迎えた今、地上波テレビのゴールデン時間帯でひたすら視聴者を惑わし続ける大手メディアはアイドルボーイズグループの氷山の一角しか伝えてこなかった点で重大な罪を犯しているといえるだろう。また、ネット上に散見する読解力の乏しい「木を見て森を見ず」の的外れな「つぶやき」にも困惑せざるを得ない。ともあれ近年、その硬直化した状況が打破されつつあるのは、地上波に代表される大手メディアに固執することなく、SNSを活用しながらも過信せずに冷静に対応することで実力を磨いてきた諸グループの努力の結果と考えられる。

要するに、実力派アイドルグループは元来、多元的であった。実力派諸グループの地盤固めによって、非アイドルというイノベーターの新生グループによる実力派宣言がなされ、今では最初から高い実力をベースに直球でアイドルと称する方向へと進みつつある。そこに最近台湾出身のボーイズグループ noovy が参戦（2017年9月に日本でメジャーデビュー）し、さらに多様化が進行中でますます目が離せない（写真2）。

---

#### 主要参考資料

〔文献（単行本）〕

洋泉社 MOOK 『21世紀深夜ドラマ読本』 洋泉社、2015年6月20日

ロマンアルバム『舞台役者の REAL VOICE ヒョウゲンシャノキモチ。vol.1』 徳間書店、2015年9月15日

その他

〔文献（雑誌）〕

『ROCKSTAR vol.08』（ARENA37° C2010年5月号増刊）その他、本文中に記載。

〔DVD〕

「RUN&GUN SUMMER TOUR 03-BLUE JOURNEY-8.20 SHIBUYA AX」（2004年）。その他、本文中に記載。

〔参考サイト〕

CINRA NET. (<https://www.cinra.net/interview/201706-winds> 2017年11月13日参照)。その他、本文中に記載。







